



■第4回 合宿報告■

「地域特性に合わせた活動を行っていくということ」

“NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所”では4回目となる視察旅行合宿を行いましたので報告します。12/5~6の2日間の合宿で多摩市、八王子市、北杜市での市民発電所の取り組みを学び、かつ観光地の昇仙峡とワイナリーを楽しもうということで18名の参加がありました。

活動を持続するための発展段階と事業性の確保



たまエンパワー(株)の活動を伺う @多摩市

1カ所目は“たまエンパワー株式会社(2015年4月設立)”の山川さん親子から事業の説明を受け、意見交流を行いました。多摩循環型エネルギー協会→多摩電力合同会社→たまエンパワー株式会社と発展を行ってきており、このことは市民団体としての活動だけでなく、具体的な事業主体を立て事業の持続(=活動の継続)を行っていくことの必要に応じたものでした。事業性によって生活を守ることができるだけの活動へのコミットを実現、そしてそのことにより地域での再エネ施策の推進を行っていくつなぎ役を担うとのことでした。



代表 山川勇一郎氏

八王子の豊かな里山とともに

2カ所目は“はちエネ(一般社団法人八王子協同エネルギー)”の一号機があるユギムラ牧場、二号機建設予定の磯沼ミルクファームを見学しました。ユギムラ牧場(鈴木牧場)牛舎跡のフリースペースで事業説明と意見交換を行いました。八王子の豊かな里山エネルギーを活かす事業を検討中とのことで、ペレット製造機を借りて試したり、バイオマスや小水力なども考えたいとの話とおいしい昼食を頂きました。また、やはりエネルギー施策は日々の生活からとのことで省エネ相談を行っているとの話がありました。



ユギムラ牧場 @八王子市堀之内

はちエネ 市民発電所第1号機「牧場ソーラー」



牛舎跡のフリースペースで昼食&意見交流会

磯沼ミルクファーム @八王子市小比企町





小水力発電「朝穂堰浅尾発電所」 @北杜市

地域が大切にしてきた灌漑用水路の利用

2日目は「朝穂堰浅尾発電所」の見学に始まりました。朝穂堰は1648年の完成以降、地域の農地へ水を分け続けている農業用水路で、地域の人々が大切に守り続けてきたそうです。ハヶ岳と南アルプスを望む用水路の途中に山梨県企業局が再エネ活用のために建設した小水力発電所が朝穂堰浅尾発電所（出力12kW）です。行政主導ではあるけれど、地域の歴史に根差した発電所でした。

日本有数の日照時間による売電→賃料還元

最後の見学先は“株式会社市民ソーラー”です。北杜市は全国でも有数の日照時間を誇る地域で、車を走らせるとそこかしこにソーラーパネルを目にします。北杜市ではパブルの際に切り開いた別荘地用の荒れ地があり、その荒れ地を買って株市民ソーラーではソーラーパネルを設置していました。方式としては、市民が「ソーラー発電パネル」を購入（6万円/1枚）→オーナーに株市民ソーラーが毎年賃料を払う→株市民ソーラーは売電収入で運営管理を行う、というものです。代表の澤さんはもともと環境教育や啓発の活動から始めたと話していました。資本金はほぼ澤さんの個人資産で、澤さんの活動はボランティア、地域還元のための現地雇用を行っているとのことでした。今後はソーラーシェアリングなどの事業を検討していきたいとの展望も聞かせていただきました。



株市民ソーラー 代表 澤光春氏から話を伺う @北杜市「北杜9号&10号」パネルオーナー募集中！

おわりに

4カ所の発電事業の視察・見学を行った今回の合宿では、やはり「所変われば品変わる」地域によって人・もの・環境が変わることから、それぞれのやり方や考え方で事業が行われていることを再確認させられました。その上で川崎での川崎らしい(=川崎発電所らしい)取り組みをより一層深め進めていくことが大切であると思いました。

児玉 桃太郎

■川崎地域エネルギー市民協議会 設立■

川崎市内で市民共同発電所の設置実績を持つ団体などが中心となって、「川崎地域エネルギー市民協議会」を1月21日に設立することになりました。設立を記念し、市民電力連絡会の竹村会長を講師に、都市における地域エネルギーの可能性についての講演会を開催します。

この協議会は、「川崎地域において再生可能エネルギーによる創エネルギー、省エネルギー及び畜エネルギーを推進するために活動する市民が連携・共同し、災害に強い、エネルギーの地産地消、地域分散型のまちづくりを実現すること」を目的とします。

日時・場所： **1月21日** 18時30分～20時30分 高津市民館 視聴覚室 参加費無料
記念講演： 竹村英明氏（市民電力連絡会会長）『新しい時代をひらく地域エネルギー』
主催： 川崎地域エネルギー市民協議会準備会

【呼びかけ団体】 NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所、NPO法人川崎フューチャー・ネットワーク、かわさき市民共同おひさまプロジェクト、認定NPO法人アクト川崎、マンション管理組合発電所、ミツバチの会、伊藤清美（麻生クールアース推進委員会）



■ミャンマーから視察団を受け入れ■

去る 11 月 29 日、ミャンマー視察団を受け入れた。外国の方々を受け入れるのは、8 月 14 日の台湾の国営テレビの取材以来 2 度目。「村全体で再生可能エネルギーでの電力供給ができないか」と考えているので小さな太陽光発電所を見学したい、また川崎の公害の歴史も学びたい、という要望が Foe Japan を通じて当 NPO に寄せられた。

そこで当会のみならず、「かわさき市民共同おひさまプロジェクト」代表の山下博子さんから川崎初の市民共同発電所などについて説明、「環境研究会かわさき」代表の井上俊明さんからは川崎の公害について講演していただいた。また、夜は当会の理事宅でホームパーティーを開き、夜遅くまで交流を深めた。

～村の未来は石炭火力では創れない ミャンマー視察団の来日の訳～

「日本はミャンマーに石炭関連の投融資をしないで」と訴えるために、ミャンマー 3 か所の村から 4 名が訪日した。この村々に、三菱商事、J-POWER、丸紅といった日本の大企業が石炭火力発電所を計画中だ。しかもそうした日本企業に融資を一番出しているのは、日本政府 100% 出資の国際協力銀行（J B I C）。「日本の力を、世界のために」と掲げている J B I C が、「地元のコミュニティに危害をもたらし、自身の評判を汚して、少数の業者の利している」という。

日本の最先端の火力発電をではなく、公害規制緩い発電所を輸出する。しかも、その電力はタイに輸出するためのものだ。

3 か所の村々は自然豊かな国境地帯にある。「私たちはすでに豊かだ。必要なものは、私たちの大地から得ることができる。石炭火力発電所はこの地域にはいらぬ！ 村の未来は石炭火力発電では創れない」と訴えている。

その村の一つアンディ村 7 村では村民人口 8,000 人内、6,000 人が反対運動に参加するなど、石炭反対運動は最大規模の社会運動となっている。「石炭火力発電による健康被害について、他の地域や隣国のコミュニティから学んだ」。「契約は交わされたが、工事は一切始まっていない。大声をあげて追い出してしまったからだ。しかし、安心したわけではない」。「私たちは日本政府や企業が悪いと言うために来たのでは決してない。私たちの声を直接聞いて欲しい」。

このアンディ村には電気は通じていない。ディーゼル発電機 2 台を村全体で共同購入・管理し、夜 6 時から 10 時まで運転している。これを村の僧院が中心になって運営し、この方法で、村全体に太陽光での電力供給ができればと計画だ。他のエーヤワディー管区ガヨーカウ区域やタニンダーリ管区タラブ



当 NPO の 1 号機（屋上）を見学する視察団 @中原区

ウィン村区域では、個々の世帯で小さいソーラーパネルを購入・利用、ディーゼル発電機を持っている世帯もある。村全体で再生可能エネルギーでの電力供給をできればと考えている。こうした背景が今回の視察となった。我々の小さな発電所の取り組みがミャンマーにも広がるよう期待したい。

理事 高橋 喜宣



当 NPO 理事宅にて鍋パーティ、日本酒も好評で話が尽きない・・・。



■自己紹介コーナー■ No.16

今月号は、人と人を繋ぐ不思議な引力を持ち合わせている理事長、川岸卓哉さんの自己紹介です。



見知らぬ景色と出会う“旅”

川崎市麻生区の外れ、多摩丘陵の一角にある虹ヶ丘団地で生まれ育ちました。多摩丘陵の、緑豊かで、坂の多い地形。スタジオジブリの「耳をすませば」という多摩地域のニュータウンを舞台にした映画は、この地域に育ったものに格別の郷愁を誘うものだと思います。

あてのない旅や街歩きが好きです。小説「深夜特急」にあこがれて、司法修習生の最後の休み、バックパックを背負った一人旅に出て、1か月間陸路で、香港から広州、ベトナムを経て、カンボジアのアンコールワットまで行ったことは、かけがえのない思い出です。

4年前に川崎合同法律事務所で弁護士として仕事を始めてからは、海外放浪の誘惑は断ち、川崎の地域を歩き回ろうと覚悟を決めました。時は福島原発事故直後、反原発アクションに立ち上がる老若男女多くの市民とともに活動することがいつしか私のライフワークになり、今の再生可能エネルギー普及活動の立ち上げにつながっていきました。

旅の醍醐味は、人との出会いと、見知らぬ景色を見ること、この感動にあります。川崎の地で旅をはじめた4年間、多くの人々と出会い、共に、見知らぬ景色を見てきました。このNPO法人の仲間と（あるいはまだ見ぬ仲間と）ともに、これからも見知らぬ景色の見える地へ、旅を進めていきたいと思っています。

理事長 川岸 卓哉

福島事故からエネルギーシフトに向けて

■「日本と原発」上映会&講演会■ 講師：竹村英明さん

- 日時：2016年1月31日（日） 第1部 映画会 14:00~16:30
第2部 講演会 16:45~18:30

- 会場：川崎市平和館「屋内広場」 ※協賛金500円~ご協力お願いします

2016年から始まる電力小売り完全自由化に向け、「日本と原発」の映画上映会と講演会を行います。

【編集後記】

年2回ペースで行っている視察合宿。主催しておきながら言うのもなんですが、毎回ミステリーツアーのよう。いつも、想定以上の《出会い》と感動が生まれます。今回は3つの地域にお邪魔して、それぞれ活躍している市民団体の方々と交流できたことは本当に貴重な時間でしたし、大自然との融合もあり。伝えたいこと、載せたい写真、たくさんあるのですが紙面の都合上これが限界。出会ってくださった皆様に心より感謝申し上げます。（加藤伸子）

■NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

